

2018年10月から2021年2月までのスペクトル解析結果と考察(関口孝志)

8台のカメラの観測で、ほぼ2年4か月で2257個のスペクトルが得られました。7つのタイプが殆ど得られました。Feが50-80%になっているタイプが46個得られました。ふたご群の年とカメラによる三角比やタイプ別の割合を比べました。群による年やカメラによって違いが見られました。2021年4月の鉄流星の光度変化や軌道比較から母天体候補を探しました。4月3日の火球の励起温度は、約2960度となりました。2020年12月下旬から2021年1月初めに似た軌道があり、調べた結果、1月から2月の μ -Ori群とIw_JN0群と関連があり初期活動をとらえたと言えそうです。